



西小だより

5 月 号
3・5・7

・考える子
・やさしい子
・つよい子
・はたらく子



挨拶があふれる学校・地域に

校長 淵上 こそえ

風薫る5月。校庭のつつじが美しく咲き誇り、学校林の新緑が鮮やかに輝いています。

新年度がスタートして約1か月。子ども達は、新しい学年での生活にも慣れ、勉強に、運動に、様々な活動に、西小の5つの気（元気・本気・根気・やる気・和気）を発揮しながらしっかりと取り組んでいます。

さて、田布施西小学校の今年度のチャレンジ目標は「**明るい挨拶** 相手のことを考えた言葉づかい 進んで読書」です。今年1年をかけて子ども達と共に、挨拶、言葉づかい、読書に力を入れていきたいと思ひます。

まずは、挨拶です。挨拶の最大のポイントは「**声とともに気持ちを届ける**」ことです。具体的には、次の4つのことに気をつけた挨拶ができるようになってほしいと思ひます。

「あ」・・・あかるく（声も、表情も、気持ちも）

「い」・・・いつも（時間に関係なく、学校だけでなく家庭や地域でも）

「さ」・・・さきに（自分から率先して）

「つ」・・・つたわるように（聞こえなければ気持ちも伝わりません）

私は毎朝、歩道橋のところ立って挨拶をしています。4月当初はあまり子ども達の挨拶の音が聞かれませんでした。最近では多くの子ども達が明るい声で気持ちのよい挨拶をしてくれます。そして玄関では、教頭先生が子ども達を出迎えて挨拶をしています。また、運営委員会の子ども達が毎週木曜日に各教室を回って「挨拶運動」をしています。このように毎朝、気持ちのよい挨拶がそここで聞こえ、学校全体を明るくしてくれています。

挨拶の語源は「一挨拶（いちあいいちさつ）」、禅宗の問答に由来した言葉だそうです。

「挨拶」は「心を開いて近づく」、「挨拶」も同様に「迫る、近づく」という意味があるそうです。つまり挨拶は「心を開いて相手に近づく」という意味なのだそうです。

また、人間関係を大切にする茶道では、「一挨拶」は精進の基本とされており、素直に挨拶ができることは、人間本来の姿であり、人間社会の秩序の基であるとの教えがあるそうです。

ある会社の話です。その会社では、社員間のトラブルが多く、頭を痛めていた社長さんが、挨拶練習を取り入れられたそうです。最初は「いまさら挨拶なんて」「挨拶まで強要されたくない」等、社員の反発も大きくすなりとは進みませんでした。それでも、仕事をする上での挨拶の大切さ、人間関係の大切さについてミーティングを重ね、挨拶練習を重ねた半年後、お客様から「社内が明るくなりましたね」という言葉をかけられたそうです。気がつくやう、朝の挨拶は勿論、外出時の挨拶、退社時の挨拶もきちんとできるようになっていて、社員間のトラブルも激減し、コミュニケーション不足からくるミスも少なくなっていたそうです。この話からも、挨拶の大切さ、意義深さがうかがえます。

今年度はぜひ、意識しなくても自然に挨拶が交わされる、挨拶をするのが当たり前な「挨拶があふれる学校」を目指していきたいと思ひます。

そして、学校での取組が保護者の方々や地域の皆様の御協力のもと「挨拶があふれる西田布施地域」へとつながっていくことを願っています。



新型コロナウイルス感染防止についてのお願ひ

ゴールデンウィークは、楽しく過ごされましたでしょうか。大きな事故やけがもなく子ども達が元気に登校することができており、本当にありがたく、うれしく思っています。

しかしながら、依然として新型コロナウイルスの感染は収束せず、山口県内でも各地で毎日のように感染者が確認されており、いづどこで感染が起こってもおかしくない状況です。

つきましては、万一お子様や同居の御家族に37.5℃以上の発熱、激しい咳、味覚・嗅覚異常等の症状があったり、御家族の学校や職場で検査対象の方が確認されたりした場合には、学校（0820-52-2051）に御連絡の上、登校を控えていただきますようよろしくお願ひいたします。